第２回　金山町立小中学校の未来像検討委員会 議事録

日　時: 令和８年７月 22 日（水）15：20～ 16：10
場　所: 新庄市立明倫学園
出席者: 委員 13 名中 10 名出席（横山委員、伊藤委員、柿﨑委員は欠席）
（事務局）鈴木教育長、佐藤課長、三上課長補佐、小野

金山町立小中学校を義務教育学校へ移行するにあたり、校舎の整備（ハード面）のシミュレーションと、今後の教育の方向性（ソフト面）について協議が行われた。協議内容については以下のとおり。

１．概算事業費について

３つのシミュレーション（新築・増築・改修）概算費用について説明。

・新築（約 34 億～41 億円）: 新たに校舎を建てる案。地盤改良やプール建設などを含む。

・増築＋改修（約 24 億～29 億円）: 現在の中学校に小学校部分を増築し、中学校も改修する案。新築に比べ初期投資を 25～30%抑えられる。

・改修のみ（約 17 億～22 億円）: 現在の中学校を大きく改修し、小学校部分を入れ込む案。最も費用を抑えられるが、曲線の多い現在の校舎では技術的に難しい面がある。

２．補助事業について

・国から費用の 1/2 の補助を受けられる制度があるが、適用には厳しい条件（面積要件等）。

・新築の場合、現在の小中学校以外の場所に建てる場合が最も補助を受けやすいが、まだ使える現在の校舎（中学校は築 37 年）を取り壊すことへ懸念がある。

・増築・改修の場合、統合後の必要面積と現在の校舎の面積の差が補助の計算元となるため、すでに十分な教室数がある現状では「面積要件」を満たさず、補助を受けられない可能性が高い。

３．今後の方向性について

・少子化が進む中、子供たちに幸せな環境を提供するためにどうすべきかが議論。

・職員室が一緒になることで教員間の連携が取りやすくなることや、小中学生が日常的に交流できる環境を作ることが大きなメリット。

・現在の小中学校それぞれの校舎のままで、「金山スタイルの義務教育学校を目指す」ということも考えられる。

・この委員会では、教育論（ソフト面）での方向性を固め、校舎の建設については必要に応じて別の検討委員会等での協議を行う

４．次回開催予定

次回は 11 月頃（第 3 回）に開催予定であり、ここで委員会としての結論（案）を出す方針。

議事録調整者　小野